

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	691900013
法人名	特定非営利活動法人 あすなろの会
事業所名	グループホーム あすなろ南陽
訪問調査日	平成 19 年 9 月 7 日
評価確定日	平成 19 年 11 月 8 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月31日

【評価実施概要】

事業所番号	691900013		
法人名	特定非営利活動法人 あすなろの会		
事業所名	グループホーム あすなろ南陽		
所在地 (電話番号)	山形県南陽市宮内2767番地の15 (電 話) 0238-59-5320		
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県山形市松波四丁目1番15号		
訪問調査日	平成19年9月7日	評価確定日	平成19年11月8日

【情報提供票より】(平成19年7月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年12月11日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤	11 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 10.6 人

(2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	新築/改築
建物構造	木造	造り
	2階建ての	階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷金	有(円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 200 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(7月31日現在)

利用者人数	12 名	男性	名	女性	12 名
要介護1	6 名	要介護2	2 名		
要介護3	1 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 85.4 歳	最低	78 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	公立置賜南陽病院 伊藤歯科医院 板垣医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

癒し系の音楽を流しながら軽体操を行う「ミュージック・ケア」(音楽療法・運動療法)を取り入れ、利用者の運動不足の解消、体と心のケアに取り組んでいます。
また、自治会や老人クラブに加入したり、地区や学校からのボランティアを受け入れたりしながら、地域とのつきあいや交流を大切にした利用者の生活の質の向上にも積極的に取り組んでいるホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>口腔内の清潔保持の支援について、朝食後と夕食後に加え、昼食後も個々に必要な支援を行う取り組みがなされている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の意義は理解されつつあるが、今回の自己評価は管理者や副管理者といった一部の職員により行われている。職員全員で評価に取り組むことにより、自己評価及び外部評価の意義や目的が全ての職員により理解される取り組みが期待される。</p>
	②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回実施されており、そこで出された意見や要望は全職員で話し合いが行われ、ケアサービスの質の向上に活かしている。</p>
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の面会時、意見や希望が出しやすいように声がけしている。また、要望があった場合は、全職員に周知して問題に取り組んでいる。</p>
重点項目	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会、老人クラブに加入し、利用者と共に地域活動に積極的に参加しており、また、地区や高校生のボランティアを受け入れるなど、地域とのつきあいや交流を大切にしている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念は形作られているが、地域密着型サービスの視点に立った内容が、理念の中にまだ具体的には盛り込まれていない。	○	地域密着型サービスとしてホームが担う役割を職員全員で確認し、運営理念にもその内容を具体的に反映させていく取り組みが期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼や月に1度のサービス担当者会議の中で、管理者と職員による話し合いが行われ、日々の業務の中で理念を実践できるように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会、老人クラブに加入し、利用者と共に地域活動に積極的に参加しており、また、地区や高校生のボランティアを受け入れるなど、地域とのつきあいや交流を大切にしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義は理解されつつあるが、今回の自己評価は管理者や副管理者といった一部の職員により行われている。	○	職員全員で評価に取り組むことにより、自己評価及び外部評価の意義や目的が全ての職員により理解される取り組みが期待される。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回実施されており、そこで出された意見や要望は全職員で話し合いが行われ、ケアサービスの質の向上に活かしている。		

山形県 グループホームあすなる南陽

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は市役所に出かけて行き、ホームの状況や運営の実態を話して相談し、市の担当者と共にホームのより良いあり方を考えている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶり及び金銭の出納については、毎月1回請求書とともに手書きの報告を行っている。また、職員の異動は月に1度のおたよりで、健康状態に関しては随時、電話で連絡を行い、定期的及び個々にあわせた報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時、意見や希望が出しやすいように声がけしている。また、要望があった場合は、全職員に周知して問題に取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	担当者を決めて馴染みの職員による支援を行っている。また、職員が交代する場合は十分な引き継ぎを行い、統一した見解により利用者へのダメージを最小限に防ぐ配慮が見られる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入社員の研修はもちろん、経験年数に応じた研修の機会を確保している。また、研修の内容を月に1度の会議で報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の支部会を設立しており、そこに参加することによりケアサービスの質の向上を目指している。また、今後はグループホーム同士の交換研修の実施も考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 利用本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者本人が「中心」になれるような内容を見つける努力をしている。また、昔やっていた仕事や趣味などから、職員が教えてもらえる場面がより多くもてるよう、声かけなどの工夫をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、利用者一人ひとりの希望や意向を自然に把握できるように、少人数の馴染みの関係を上手に活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者と家族の話し合いを十分行い、それぞれの意見やアイデアを活かした介護計画を職員全員で作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度の見直し期間を決めており、変化があった場合はその都度、本人や家族と話し合い、現状に即した計画を作っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	本人や家族が希望する、それぞれの馴染みのかかりつ け医での受診になっている。また、基本的に通院は家 族が対応し、近況を記入したものを持参し状態も明確 にして医療機関とも情報を密にしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	重度化や終末期に向けた話し合いを、家族や主治医と 検討していく考えはあるものの、現段階ではまだ取り組 みはなされていない。	○	重度化や終末期のあり方について、できるだけ早い段階 から本人や家族ならびに主治医が話し合い、全員で方針 を共有することができるための取り組みが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをして いない	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないよ うに言葉づかいに十分気を付けている。また、個人情報 の取り扱いについても、他の利用者や家族、外来者に 漏れないようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの決まりや都合に利用者が合わせるのではな く、利用者のペースに合わせて、その日の希望などを 聞きながら柔軟に対応している。		

山形県 グループホームあすなる南陽

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの力を活かしながら、食事の準備や下ごしらえを担当してもらい、職員と一緒に楽しみながら食事を行い、後片付けをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月曜日～土曜日の間で、利用者の希望により入浴が可能である。また、職員の見守りにより、入浴が楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴から得意な事を見つけ、歌や畑仕事、洗濯物干し、「笹まき作り」といった経験や知恵を発揮できる場面をつくり、喜びのある日々を過ごせるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	畑に出かけたり、買い物や散歩といった外出が利用者一人ひとりの希望により行われており、職員はそれぞれに同行したり、見守りにより支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	全職員が、鍵をかけることの利用者への弊害を十分理解しており、利用者が外出しそうな時は声がけしたり一緒について行ったりして、鍵をかけなくても安全に過ごせるように取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時に対するマニュアルがあり、避難訓練を行っている。また、災害時に地域の方々の協力を得られる体制について、運営推進会議の中で検討していく予定がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事日誌を記入し、大まかな栄養摂取及び水分量が把握されており、全職員がその情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間、特に居間は天井が高く、ほどよい光が射す開放的で明るい快適に過ごせる場所となっている。また、窓から見える畑の様子、野菜の育ち具合や草花の成長などからも、季節の変化がわかるようになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への持ち込みは自由であり、利用者の馴染みの物や写真などが数多く持ち込まれ、一人ひとりが安心して過ごせる場所となっている。		